学校だより　2月号

相模原市立二本松小学校
2026.1.27

にほんまつ

「かしこさ」
「やさしさ」
「たくましさ」

松っ子ブログ

「察する」ことの根底にあるもの

校長　　松浦　隆志

よく昔から日本に伝わる美徳の一つとして「察する」ということがあります。「察する」の意味を辞書で調べてみると、

①推察・推測する　…　目に見えない背景や隠された事情を、限られた情報から「そうだろう」と推し量る。
②空気を読む　…　明確に言葉にされなくても、その場の状況から何がおきているか、何が求められているかを理解する。

と書いてありました。けれども、言葉にしないと目に見えない気持ちは、わからないことが多く、気持ちがすれ違って誤解を生じたり、トラブルになってしまうこともあります。また「空気を読もう」と気を使ってばかりいては、疲れてしまいます。

私は、「察する」の根底には、「相手に関心をもつ」「相手の立場に立って考える」「相手の気持ちを考える」ということがなければいけないと思っています。

学校は、集団で学ぶ場です。それぞれ個性のある子どもたちが一緒に過ごす小さな社会です。長い時間を共に過ごせば、誤解やトラブルが生じます。そんな時こそ大切になってくるのが、「相手の気持ちを察する力」だと考えています。

子どもたちは、友だちと仲良く楽しく過ごした「成功体験」を通して「自信」をつけます。 友だちとうまくいかない「失敗体験」を乗り越えてしなやかな「強さ」を身につけます。

「察する」というのは、見えないものがわかるというような、超能力みたいな力ではないと思います。「察する」ことの本質は、たとえ相手のことがわからなかったとしても、自分とは違う相手の個性を認め、相手の気持ちに共感し、理解しようとするような「おもいやり」に「あるのではないでしょうか。

さて、もうお気づきの方もいらっしゃると思いますが、実は「察する」には、大切な意味がもう一つあります。それは次のような内容です。

「相手の心中を思いやる・共感する・配慮する」